（1）　第6號　（旬刊）　友愛　昭和28年8月25日發行

青年の大同團結を提唱

今秋を期し全國の青年團體に呼かく

朝鮮における戦火もようやく一応美しき伝統と豊かな詩想の上に立しておさまり、平和に対する一条の光明が見出されたとは、今後の世界情勢、なかんずく日本の行方に対して相当な意義を持つものといえよう。

しかし来ノ天陣営の対立は依然としてとけず、国際情勢の混迷はさけられない現状が続くことであろう。振返ってわが国の事情をみるに、国際的不安定を反映し、至る所に不信、不満的要素が充満し、そこにはわれわれ青年が望する正義も情熱もなく、有るものは醜悪なる腐敗の社会のみで、青年をして盛華の世界へと走らせてしまうのである。

全国の青年諸君！かゝる現状を黙視してよいであろうか、われわれ青年こそ真に世界の平和と日本の独立と自由を強く希求しているのである。そしてわれわれの力で

（一）地域的にも連絡機関を設置中央においては全国協議会を設置して全国的な連絡機関とするがそれと共に各地域にも連絡機関を設けその地域としての特異な問題について協議して地域社会と結合した方向を持って行くことも考えなければならない。

（二）各青年団体相互の特異性の調整に務めよう。

同じ世代の人々の団体としての各団体独自の趣意綱領や運動方針等があることに留意し、それらの調整を極力行わなければ青年の大同団結も不可能で、目標が遠大なればなるほど、地固めを強くしなければならないのであと、長時間をかけても調整には力を注ぐ

（三）青年共通の問題をかかげて協力体制を整えよう。

各々の立場はあるとはいえ青年としての共通の問題は多くはあるはずである。その様な問題が起ったならば、青年は一致してこれを真剣に討議して最大公約数を求め協結点を見出さなければならない。

（五）青年の真の声をあらゆる面に反映させよう。

われわれ青年の真の叫びに耳をかさないような現状を憂え、あらゆる面にわたって青年の希求する処のものを積極的に反映させるために、まずわれわれ自身をより強力な団結体から出発し、われわれのはたさなければならない使命の重大性を真剣に認識しなければならない。

（六）政治的無関心を排除しよう。

われわれ青年の周りをかこんでいる客観情勢が微妙なればなるほど真にヒユマニテイな立場に立脚した

（一）婦人会員と地方会員との連携強化に務める。

（二）各種青年団体及び地元民との交流をはかれ。

（三）本部に於いては地方会員及び婦人会員の活動展開に呼応して出来得る限り、工作隊及遊説隊等の派遣を行う。

（四）地方支部結成気運の醸成

地元会員を中心にグループ活動に入れる段階になったならば、同地方の他グループに呼びかけ支部結成準備を行うように務める。

（五）無会員地方に対しても働きかけるように務める。

（三）本部工作隊及び遊説隊の派遣。

本部に於いては地方会員及び婦人会員の活動展開に呼応して出来得る限り、工作隊及遊説隊等の派遣を行う。

（四）地方支部結成気運の醸成

地元会員を中心にグループ活動に入れる段階になったならば、同地方の他グループに呼びかけ支部結成準備を行うように務める。

（五）無会員地方に対しても働きかけるように務める。

（六）全会員に依る啓蒙宣伝活動の強化

本会の趣意を認識させるためにも全会員はあらゆる場合をとらえて宣伝強化に務めなければならない又それと同時に友愛精神による真の民主社会建設のための啓蒙も行なはなければならない。

（七）合宿による会員相互の団結と友情を深める。

合宿地に於ける会員の行動は工作隊の中心となり各会々その地元民との交流を積極的に行う。

かけるように務める。

無会員地方に帰省した会員は一応本会の方に帰って来るか、又は帰省した会員は一応本会の方に帰って来るか、又は帰省した会員は一応本会の方に帰って来るか、又は

やぶにらん　横槍放談

國際政治と日本の進路

聞く人……近藤春雄
語る人……蠟山政道

蠟山政道氏は、明治二十八年、新潟縣の生れ。法學博士、東大敎授として政治學を担当されて後、東京政治經濟研究所などで後進の指導に当られたが、衆議院に議席をもつておられた頃には學者議員として國政に貢獻された。私は外務省在職当時、大學院に新設して二時先生の研究室に籍を置かせて頂いて、國際政治について直接もある。（編輯者白）

近藤―暫く久しお目にかかりませんでしたが、先生はむかしと少しもお変りありませんね。

蠟山―そうでしょうか、そういう君こそむかしと変りみたいな気がしますがね。

近藤―とにかう恐縮です。じや変つたのは時世ばかりということにして、さつそく時局談を拝聴致したい思います。まづ第一に伺いたいことは、いま世界が米・ソ両陣営に分れて、いわゆる冷い戦争にうかたちで対立している現状など、先生はどうお考えになつておられるでしようか？

蠟山―手短に言つて、それはつまり、第二次世界大戦が済んでからの後始末について、アメリカとソ連の孰つた措置の方法それがこの対立を齎した原因だと思いますね。

近藤―というと、アメリカ式とソ連式とでも申しましようか、この両国を主体としての戦後措置の方法がそうさせたのだとおつしやるわけですね。

蠟山―そうです。現実的にいうと今度の戦争の結果、ヨーロツパではドイツ、アジアでは日本という、ともかく二強国の敗北によつて、そこにぽつの真空地帯が生じたわけですね。だからアメリカとソ連は、その真空地帯を充填しようとして、そこに色々な術を施したわけです。具体的には、アメリカは自由主義陣営の国々に対して、戦後復興の補助策として、いわゆるマーシャル・プラン等によつて初めは經濟援助をやつていたものが、そのうち西歐軍の創設という問題に入つて来ると軍事援助に移行して行つたのですがいづれにもせよ米の「力」を援助して、經濟的にも軍事的にもその実力を強化して行くという方法には変りありませんね。ところで一方ソ連は、もつと直接的な方法で、つまり一種の軍事的制圧やら威嚇手段によつて、イデオロギー的に同化同調させながら、次々に自分の衛星國をつくつて来たわけです。

近藤―そこで自由主義國家群と共産主義國家群に分れた訳ですね。まあ中にはユーゴーのように特殊な存在の國もありますけど……。

蠟山―ええそうです。しかし私はアメリカにもソ連にしろ、戦後の世界をこのようにして、各々の陣営に引入れながら両分したというところに、そもそもの一切の禍のもとがあつたのではなかろうかと思つているんですよ。その極端な例が、ドイツと朝鮮に見られる通りで、いつたい一つの國家を、民族なりをその個人的機械的に二つに分割してしまうなどということ、それ自体が本自然極まることなのですから、こりやある場合からムリというより他はないじやありませんか。

近藤―御説の通りですね。つまり現実の結果から見ると、今度の戦争によつて、ヨーロツパならばドイツを、アジアからは日本を抹殺しようとしたばかりに、それまではともかく中間に一種の防壁的な緩衝国を置いたものが無くなつて、米ソが直接に面と向つてしまつたんですから、お互いに睨み合う形になるのも当然のことですね。昭和十五年頃私はドイツの新聞記者と一緒に大陸を旅行したとき、北満の開拓地帯を見て、『これは共産主義に対する人間の防壁（メンシエンマウアー・ケーゲン・コムニスムス）だ』と冗談を言われましたが、そういう防壁が無くなつて、直接米の子が跳んで来る様になつたのですから、アメリカにしたつてなかなか容易なことではないでしよう。

蠟山―その通りです。だから両方とも一生懸命になつて、一国でも、いやたとえ半分でも自分の味方に引入れて陣営を固めようとして大変になつていたのが今までの現状です、しかしその後ソ連について言えばスターリンの死後はいささか方針が変つて来た様に印象があることは慥かです。だからソ連にとつてはその衛星國が段々衰頽を挽回するに従つて國際的な圧迫やら対外的な発言力などもう強くなつたというわけです。それらの点度にいつた様に、こういう傾向が現れたというのも、戦後処理の方法として採用したムリがそうさせたのだという観もありますし、一種の緩和政策と見て見られないこともないでしよう。

近藤―元来朝鮮戦争にうちのはどうちにとつても誠に不快なものです、おまけ無益の消耗に過ぎないということに双方が気附いたという点もあるんじやないでしようか？

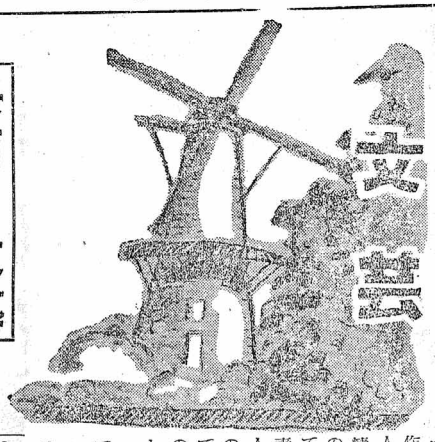
蠟山―ええまあそれもあるでしよう。殊に中共自身の立場としては、そんな無益な犠牲を出して消耗を重ねているよりは、まず自分の国内建設の方が大切重要であるし、隣国の急だと考えたんじやないかと思いますね。朝鮮にしたつて、いつまでもあゝいう形でおかれていることは不幸ですし、それに第一地理的な配置條件から言つても、農業地帯の南鮮と工業地帯の北鮮とこの両方が一体となつてこそ立つて行かれる国なのですから、それを分断しておつては結局両者共に不幸せということになつてしまいますよ。

近藤―統一問題による統一国家の自主独立、それを希求する気持はドイツも朝鮮も同じ立場だと思います。ところでアメリカについてはどう考えになりますか？

蠟山―アメリカは、そうして自己の陣営に属する国々を着々と強化して行つた。そこまではよかつたわけですが、たとえばイギリスのように、經濟的軍事的に強化されて国の実力が回復してくると、従つて、段々とアメリカの言うことをきかなくなつて来たという傾向が見られるのも事実です

映画と文藝

守安正



文藝と映画

1

文藝と映画を論じるとき、まづ第一に考えられることは、いわゆる文藝映画—つまり文藝として優れた作品の映画化ということである。一体に純画、非画の区別なくレパートリイのうちには数多くの文藝作品が採上げられているが、それならば何故に映画製作者が好んで名作を映画化するのか—その理由を理論的に解剖してみるとしよう。

まづ内的から言えば（1）作品が一つの典型になっていること、（2）テエマが明白—個性的であること、（3）フイクション性が完備していること、の三つが挙げられ、外的には、興行価値のある点であろうと考えられる。そこで（1）の典型という意味は、類型性と個性とが調和よく融合して、単にその時代ばかりの代表でなく一国民一種族の代表になっている作品をいうのであって、類型とは人間の誰もが永遠にもつ普遍的な情緒の真実であり、個性とはその時代時代特有の色によって変っていく要素である。この二つの要素が調和よい融合をするならば、人間の誰もが永遠にもつ真実とその時代時代のモダニズムが完備して、作者は人間を探求して、人間の真実と時代相の必然をよく表現し、その必然によって作品は単に一時代ばかりでなく数時代—ひいては一国民一種族を代表する様なものを創作することができるのである。

たとえば『ハムレット』についていうと、この中のハムレットの性格やオフイリア、ポローニアスホレーションの性格、またはこれらの人々のかも出す種々な事件には人生の真実がよく描かれていて而もその時代独特の様相を備え、且つその様相は現代から必然的に通じ、さらに当然現代に連なる時代相をもつているのであって、つまり類型性と個性との完全な調和があり、しかもイギリスを代表する様なひとつの典型的な要素をも兼ね備えているというのである。日本の『源氏物語』も同様であって、それが書かれたのは寸法にして三年から七年の間と推定され、即ち五冊ではあれば十一世紀の初頭という、外国にはまだ小説らしいものも、フイクションさえなかつた遠の古い時代の小説であっても、私達はその中から人生の真実を発見し、またその時代の個性の必然性によつて今日でもなお極々として胸をうつ共感を覚え、これもまた日本人を代表した作品と呼ぶことができるのであって、こういう点に於て当然映画製作者の魅力になるのである。

次に（2）のテエマが明白であるということは、優れた文藝作品においては作者はモチイフから出て来るアイデイアを苦心惨憺して研究し反省し、そのアイデイアが自分の人生観なり観察の焦点を最も有効に織り込めるかを検討し、それに最も適したアイデイアを抽出して、そこに観察の焦点を絞燒してテエマを立て、そのテエマに従つてプロツトを構成して行くので、その作品には、作者のもつ個性とその作者でないと持たない独創性があるということで、この点が映画製作者の魅力になる一要素なのである。

（3）のフイクション性の完備についていうと、元来小説や戯曲は事件の系列的な積重ねであり、また事件は、行為と性格と環境の三要素の完備されたものであることは周知の通りであるが、この系列は因果関係のある必然を伴うべきであつて、事件が発端から急激を生じ、危機を経てクライマックスに上昇するということは、単に通時的な（クロノロシカル）並べ方ではなくて、論理的（ロジカル）な並べ方であるべきことを意味しているのであるが、優れた作品はこうした割合が完備し、内容的にも興味津々たる点が、映画製作者の魅力となるのである。

2

以上三つの内的要素を併せて、外的に興行価値があるという理由は、有名な芸術品が、一般に、（1）宣伝が効いている点（2）親しまれている点、即ち内容の滲透性があるという点であるが、特に現代の作家の場合には、この二條件の上に、更にジヤーナリズムの正確な把握ということが加えられる。つまりこの場合映画製作者は、原作のもつジヤーナリズムの名声に便乗して宣伝費の節約というような資本家的な附合目ともなりうるわけであるが、これは往々にして、原作の宣伝が映画の宣伝に蔽い隠したり、内容の滲透性が却つて映画を毒したりするような効果を招く場合があると同時に、何よりも致命的な失敗を招く原因となることは、小説や戯曲と映画との本質的な差異という点である。特に小説の場合、その差異がひどいことは、要するに映画は、たとえトーキーであつても結局『見る芸術』であり、小説はどんなに具体的に描写しようと『読む芸術』であるという本質的な差のために文学として優れたものが必ずしも映画として良いとは決つていないという事である。つまり小説と映画とは、プロツトの構成に差があり、事件そのものと事件の配置に相違があり、とりわけて性格描写に最も大きい差があるので、小説をそのまま映画にもつて来たのでは余地なく来ないのであるから、この両者の差異を征服して、読む芸術の特色を余地なく変えて見る芸術にしてしまつてこそ初めて原作の成功があるということができるのである（筆者は映画評論家）

—景風原々高妙の宿合部生學—

青年圖書寄贈運動の計画

友愛で充たす文化の糧

おそと一国の文化水準は、国民教育制度の確立や文化施設の充実などによつて決定されるものであろうが、それと並んでいわゆるマス・コミユニケーションとしての新聞・雑誌・ラジオ・映画等の普及度もひとつの標準となるに違いない。

しかし、これらの他に、学問的知識や文化的常識或芸術的教養の供給源としての図書の普及は、特に一般青年層の旺盛な知識慾を満足させるための第一だが、それにも拘らず、従来はもちろん現在においても、この点が最も不足していることは遺憾に堪えない。

しかもこの事実は、青年の読むべき良書に乏しいということが原因なのではなくて、個人的には書籍購買費の高騰や学校、青年団等では予算の僅少など、いづれにしても図書の入手難にあることは明かなことである。

わが友愛青年同志会においてはこれら書籍事情の実相と青年の要請に応え、本会文化振興の一部として来る九月新秋を期し、別表の趣旨及び要領に従つて、青年図書贈呈運動を実施する計画を立て、この趣旨運動の成果は結局は全国に亘つてその成果は期して見るべきものがあるであろう。

この計画に呼応して、洋々社、実業之日本社、講談社、光文社、景文堂等の各出版社の協力も得られる見込みなので、本運動展開の暁には全国に亘つてその成果は期して九月上旬に発表の予定。

本運動実施の詳細については、

青年圖書寄贈運動實施要領

一、趣旨　青年の読書慾を満足させ、その教養を高めるために、青年図書を贈呈する。

二、期間　昭和二十八年九月一日から十月末日まで。

三、贈呈図書　一般教養書、文学書、科学書、実用書、児童書、雑誌等。

四、贈呈先　全国の青年学校、青年団、青年文庫、青年図書館、青年会、青年寮、青年学級、青年学校定時制、青年団体、青年会館、青年図書室、青年学校通信教育、青年学校分校、青年学校夜間学級、青年学校農業補習学校、青年学校漁業補習学校、青年学校鉱業補習学校、青年学校工業補習学校、青年学校商業補習学校、青年学校家庭補習学校、青年学校女子補習学校、青年学校専攻科、青年学校別科、青年学校研究科、青年学校本科、青年学校予科、青年学校教員養成所、青年学校教員講習所、青年学校教員養成講習所、青年学校教員養成研究所、青年学校教員養成研究講習所、青年学校教員養成研究講習会、青年学校教員養成研究講習会所、青年学校教員養成研究講習会所長、青年学校教員養成研究講習会所長代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理、青年学校教員養成研究講習会所長代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐代理補佐

地方活動狀況

地元會員及び歸省會員活潑に動く

本會も本部機構擴充以來各地区の組織化に力を注いで來たが、先に結成された杉並支部に續いて、駒込支部が去る六月二十八日結成され、東京における支部結成の氣運はいよいよ活潑化してきた。

この機を東京における動き、呼應して本部においても地方支部結成の氣運を醸成するため、別稿の如き夏季活動方針を決め、全國的に左の運動を強力に推進することになつた。

その後各地より活動狀況の連絡等がよせられ酷暑のみぎり地元會員並に歸省會員の御苦勞がしのばれた。

以下地方活動狀況を大略すれば

◎北海道地区

先に歸省した學生部會員、東海林哲君、三沢謙明君は紋別部落を中心に活潑に活動、同じく學生部會員山田祥一君は空知郡一円に働きかけを行つている。また樽住幹事海野照雄君も去る七月二十五日北海道におもむき道内一円をかけ廻つて工作中である。

◎東北地区

東北地区には本會の會員もまばらでこれといつて組織だつた働きは見られないが、福島縣郡麻郡の左開弘子君は、本部と連絡をとりつつ組織活動展開のために着々と準備を進めており現在地元にて會員數名の入會をみるに至り今後の活躍が期待される。また學生部會員の黒坂泰二君は山形縣に支部結成運動活動を展開すべく八月上旬歸省した。

◎關東地区

神奈川縣横須賀市の酒井光雄氏を中心として十數名のグループが結成され、現在あらゆる方面に工作の手をのばし支部結成に務めている。又横浜に於ても學生部の渡邊昭二君等が横浜所在の各大學及び學生團体に呼かけを行つゝあり、平塚市でもより積極行動を展開している。

埼玉縣熊谷地区では幹事の井部旭君が中心となつて小グループで泥まみれの板壁や家々に干された様々な家具を眼のあたりにして薄曇りの眼前に立つた時、凄く東京から不安でならなかつた大惨害の九州に今降り立つた安堵の感ひと新な悲哀を覚えながら我が家に急ぐ。

汽車の疲れを口にするところ家族の者の懸片付けに立働く姿に誘われて裸になつての労働である。

壁に凄くきざまれた汚れにきまざと濕氣の後を知りながら床板を踏みつけての大掃除である。

どす黒い土、炭俵の石炭のかすを含んだ紙土の様な植物の床の下から取出されて畳先に山と積まれている。

町全体が物置そのもので、日頃の面影は何処にも見られない。隣近所何処も裏側に当時の歌ひこえをふみつつも過ぎ去つた安堵の気持を語りながら立働く姿に深い同情を感じないわけには行かない。

昔に聞く当時の様子は、『凄薄の様な雨に道は川に変り夜に入つてはたたましく鳴るサイレンや半鐘の響に混つて避防決壊を知らせる人の声に、恐怖の連続で本当に一時はどうなる事かと思つた』とぎたがる表情の一つも出来るものではきまざまと瞼裏の一夜が想像され旭君が中心となつて小グループで無事であつた肉親を喜び合わ

水害の現地に立ちて

ずには居られなかつた。日一日と蒸暑さを取もどし腐敗されて来た町に響くばかりの物価の高さ、それでも喉々と人々は買つて行くらしい。夏休みも程遠い学校は閉ざされて、家々の軒先に教科書らしい書籍が並べられた家が多い。数日を経るのにまた後を絶たない汚れ物につづくと後片付けの大変さをしのぶ。

一週程下の方の堤防が切れて一ぺんに流されて何人も死んだと語る所に見に行く、東京に居た時の新聞で写真を見た所だ。新たな流ができた様な感じ、凄く田畑や押し流されかゝつた家の手もつけられぬまゝの残骸になさず然迄に似たものを覚える。至るところ尚お残つたあれな姿、漸くよみ返る生気の色が日一日と町になされても、一向に空は晴間を見せず、何日も曇つたり雨をふらせたりして寒暑するのかと思つてみる堤防に立つて田畑で働く農夫の姿を見た時にはこの広い荒地方を何広い土地、多くの人家、一瞬してこの惨状を去り住いたくばく隣のて来た、熊本の友人が「父死す母来即」の電報を手に青ざめて帰つたあの面影、東京に居た時の不安を想い返しながら、今現実に大水害の後を眺め底知れぬ憤りがこみ上げて来るのであつた。

福岡縣直方市にて　筏原好倫

國際友愛青年協會設立準備進む

かねて在日各國青年有志及われが國の青年有志の間に友愛精神をきづくとして世界の青年が手をつないで國際間の親善をはかろうとする動きがあつたが、今般日本側の深澤榮一君（日大國際政治研究室）渡辺昇君（友愛青年同志会）、増田博久君（貿易商）等が運動会社團法人日本國際政治研究所内に設つた。

尚J・F・Y・A（連絡事務所は当分の間東京都港区赤坂溜池五番地（赤坂ビル内）に置くことに決つた。

本年九月を目標に國際友愛青年協会（J・F・Y・A）の設立が計画され現在着々と準備進められている。

駒込支部（東京）結成さる

去る七月二十八日午後七時より駒込小学校に於いて、東京都城北各支部中の駒込支部が盛大なる結成大会を挙行した。会場には地元會員を始め数の来聴者がつめかけ紹介員の紹介で、当日は増山会長代理として近藤幹事長が出席又友愛青年集会部（城北連合支部

挨拶する長瀬支部長の姿

駒込支部の結成式に於ける長瀬支部長の挨拶

廣島だより

北川登

真夏にしては会合にも雨の多すぎた七月十日から十九日迄の間原爆の地広島の外、一面に植えられた草苗の中に立つ広島大学東雲分校に於いて第四回國連学連夏季ゼミナーが開講された。

全國二十七大学二百数名の中にまじり、本会会員も私をはじめ、常任幹事の渡辺昇房君（日大）が参加し、基本的課題である「アジアにおける日本の地位」について深心なる討議がなされてきたことに終心なる討議がなされた。

今回のゼミナーは、開催地広島國連学生協会の用意周到な年際国内準備に、平和都市として再建されている現地のいぶきを直接汲取ろうとする学生諸君の強い熱意と相まつて、ゼミナー開設以来の多数の大学と学生の参加を得、又多数の講師及び指導教授陣を擁して開講された事が特記さるべきであつた。

即ち研究課題に対する講演は、英修道（慶大教授）田岡良一（京大教授）藤井茂（神戸大教授）小谷勇次（広島大教授）の諸先生がなされ、八組に分れたグループ討議の指導には各名の広島大学の専門教授、及助教授、國連協会職員が当られ、最終日には國連協会副会長羽仁五郎氏が講演をなされた。

尚このゼミナーを通じて感ぜられたことは、事故を異にするとはいえ、参加した学生諸君の問題意識の程度討議の低調はまぬかれなかつたが、平和條約第五條、行政協定第三二條等に対して憲法・國連憲章を引用しての法律論も展開され、自衛権の解釈の変移については激論の交されたグループもあつた。

又一般に講師の発言を異にするため会場内に於ても論点の混乱を来すなかつたが、平和條約第五條、行政協定第三二條等に対して憲法・國連憲章を引用しての法律論も展開され、自衛権の解釈の変移については激論の交されたグループもあつた。

尚このゼミナーを通じて感ぜられたことは、事故を異にするとはいえ、参加した学生諸君の問題意識の程度討議の低調はまぬかれなかつたが、平和條約第五條、行政協定第三二條等に対して憲法・國連憲章を引用しての法律論も展開され、自衛権の解釈の変移については激論の交されたグループもあつた。

本会に於いても今後ような合同研究会を催されるであろうが、組織の拡大、地方との意志の交流会員相互の理解と協力等、本会発展の国難打開のためにも、一同に会して共に学びかつ語り合うことは非常に効果があるものと思う。

一九五三・七・十九

新入會員

沢村満雄、千葉陽吉、高杉信美、荒井長次、田尻俊一、天宮誠、鈴木義男、大橋誠、加藤恭一、吉原勇、石川安治、足立哲吉、高塚徹兵衛作、一田中英和、松本栄治、松永浩男、須地隆茂、石井八郎、添田義作、小林益雄、山野猶通、鶴岡岩

した。

支部長　長瀬喜郎
副部長　花山嘉、石橋実、安見和子、田中繁子
常任幹事　松本義勝、寺村多津子、山崎静子、飯島秀友、真鍋豊子、内海隆、三木和江、田所田和子
田村博
事務長　斉藤榮司
尚支部結成準備委員を以つて幹事にある。

城北連合支部（友愛青年倶楽部）事務所は、東京都豊島区高田本町二丁目一四八〇番地、中村梅吉方

「友愛青年同志會」會則（抄）

第一章　總則

一、本會を友愛青年同志会と称する。

二、本会は本部を東京都に置く。

本会は必要に応じ、地域別又は団体別に支部を設けることができる。支部に関する細目は別に定める。

第二章　目的及び事業

三、本会は友愛精神を基調として青年の団結を図り、政治、経済、社会及び文化の各面に亘つて公正なる識見を樹立すると共に、青年の学生及び社会活動を援護して、自由にして健全なる民主社会の実現と自主独立の文化国家の建設に挺身することを目的とする。

四、本会は前條の目的達成のために左の事業を行う。

一、友愛精神及び民主主義の普及

二、愚説撲滅と自衛体制並びに国土開発を目途とする啓蒙運動の推進

三、社会福祉と厚生文化を基本とする新生活運動の展開

四、各種青年並びに青年運動に関する資料の調査

五、青年の学究及び社会活動に対する援護助力

六、国際親善に関する青年交流

七、機関誌、公聴会、討論会、座談会、その他各種催物の開催

八、機関紙及び各種刊行物の調査刊行

九、その他本会の目的達成のために必要な事業

第三章　會員

五、本会の趣旨に賛同する男女青年を普通会員として本会の目的に協力するものを賛助会員とする。

六、普通会員を個人会員と団体会員に分け、それぞれの資格に応じて一般、団体、学生部、婦人部の各部に所属せしめる。

七、会員はその資格に応じて左の通り会費を納入する。

（A）普通会員

（1）個人会員……年額金二〇円

（2）団体会員……一口年額金一、一〇〇円

（B）賛助会員……一口年額金五、〇〇〇円

一旦納入した会費は、いかなる場合にあつても返還しない。

八、会員は本会の刊行する機関紙の配布及び各種刊行物の特別頒布を受け、本会主催の各種催物に参加ができるほか、本会の事業について、学生生活の援護その他種々の特典が与えられる。（以下略）

◎入會申込所

東京都港区赤坂溜池五番地（赤坂ビル内）
友愛青年同志会本部
（電話赤坂（48）〇一六一番）

◎申込方法

事務所所備通知下されば、申込書をお送り致します。

◎入會金

申込書と共に入会金（五十円）と会費（一ケ年分前納）を送り下されば、会員章（バッヂ）をお送り致します

◎附記

事業体単位で団体加入の場合は、人数により別途相談下さい。